

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392800134		
法人名	社会福祉法人慈光会		
事業所名	グループホーム津森倶楽部まどかユニット		
所在地	熊本県上益城郡益城町大字寺中1番地1		
自己評価作成日	令和5年 3月15日	評価結果市町村受理日	令和5年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	慈光会ホームページにて情報公開
----------	-----------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	グループホーム津森倶楽部 運営推進委員会(令和4年度運営推進委員7名に依頼)		
所在地			
評価日(書類送付)	令和5年 3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスの流行から数年経過し、津森倶楽部においては昨年度2度に渡り施設内において、感染者を出してしまいました。感染対応期間中は利用者様には不自由な状況での生活が続き、様々な我慢をしていただきました。都度経験した事の振り返りを行い、今後も『施設にコロナを入れない』という思いを常に持ち、職員一丸となり利用者の皆様が安全・安心・楽しく過ごしていただけるように努め、コロナ禍においても楽しみを持ち季節を感じながら生活出来るような行事やイベントを企画して行きたいと思っております。またご家族様においては面会等様々な制限があり心配や不安な思いをされている方も多く、少しでも安心していただけるように施設ホームページや毎月写真を掲載した情報書を郵送等による情報発信を今後も継続していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍が続き、様々な制限がある中、利用者を中心とした取り組みがなされています。住み慣れた環境で、その人らしい生活が送れるよう適切な介護サービスに努められています。法人内施設等の支援体制が確保されていることで、入居者と家族の安心感は何ものにも変え難いのではないかと感じております。職員の皆様のやさしい笑顔の対応。感染症対策に留意されながら可能な範囲を工夫され、外出支援や行事を取り入れられ、また地域との交流の機会も確保されていると思います。今後も地域行事への参加や、地域住民の方も参加できる行事の企画を通じて地域との繋がりを築いて下さい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 まどかユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に職員で事業所独自の理念を作成。施設内に掲示し理念に基づいたケアが出来るよう常に年度ごとに、経営計画を立案し取り組んでいる。	入居者の個人差がある中でできること、したいことを可能な限り取り入れた支援につながっている。	可能な限り最大限入居者が取り組めることを中心とした生活パターンをお願いしたい。 理念の共有を具体的にどのように実施されているか分かるように。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の家として毎年区費を納め、コロナ禍においても出来るかぎり地域の方と交流している。	地域との関わりが難しい状況のなか、工夫して取り組みを継続されている。 地域の民生委員さんや区長さんとのつながりを日頃からもたれていることが、役員構成で理解でき、周辺の草刈り状況のご相談もされていることから理解できる。 コロナ禍において、地域の方との交流の機会を作る事も苦勞されていると思います	コロナが落ち着き、以前のような散策等が可能になってくると、より一層地域周辺の皆様とのつながりを深めていただきたい。 コロナ禍における交流の方法と、コロナが終息した際の交流をどのように実施するかご検討下さい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校より依頼があった際は、感染状況を考慮した上で外向し認知症や施設について知識・役割を説明し発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍において感染状況に応じて会議開催の判断を行い、開催が困難な場合は期間中の取り組み等について書面を郵送し、状況報告を行っている。	コロナ禍のため、皆集まるの会合がむずかしく、施設より書面にて定期的に状況報告の資料が送られるので参照にしている。 コロナの感染者数等、状況に応じた会議開催の判断をしていただき、中止時には書面での詳しいご報告があっている。 活動の様子が分かるような写真等も添えてあり、ホーム内の状況が分かりやすい。	これまでより開催される方向で行ってほしい。直接意見交換できることが何より大切で、貴重ではないかと思われる。 会議などのオンライン化も進んでおり、対面での開催が難しい時は、オンラインを活用し開催もいいのではないのでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員の一員として、コロナ禍で会議が開催されない場合についても書面で報告を行っており、施設運営に関する問題等相談させていただいており、協力関係が築けている。	町と協力関係を築き、適切な介護サービスの実施に取り組まれている。 状況をみての会議ではあっても、市町村の担当者も出席され各代表の意見も聞かれて、相互の関係作りがなされていると思われる。 包括支援センターとしても協力できる事があれば対応いたしますので、何でもご相談下さい。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を定期的 に実施しており、日頃より身体拘束を 行っていないか職員同士で確認し、身 体拘束無いケアを実践している。	研修を行い、職員全員が身体拘束に関する 認識を共有して適切なケアに取り組んでい る。 認知症がある入居者対応には苦慮される 中、研修等により、よりよい実践が行われて いると思われる。(室内での面会ができな いため、外部には見えない部分もあるが、職員 の皆さんを信用している。)	同じ方の転倒事例等あれば、繰り返 さない対策をご検討下さい。 定期的な研修の機会を設け、お互い に虐待を防ぐ取り組みと、外部からの 目も入りやすい環境作りにつとめて 下さい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につい て学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見逃されることがないように注意を払 い、防止に努めている	身体拘束同様に虐待についても研修 を定期的 に実施しており、日頃より虐 待を行っていないか職員同士で確認 し、虐待の無いケアを実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよ う支援している	法人内外の研修会に感染状況に 応じての参加や、インターネット等を通じて 権利擁護についての理解を深める機 会をもっている。研修会に参加した場 合は復命書を作成し、職員全体での 情報共有に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	入居の際には事前にオリエンテーシ ョンを実施し、津森倶楽部における利用 契約内容、重要事項等を説明してい る。長期の入院加療が必要な際は、退 居・解約について説明し、退院時の生 活の場所についても法人内の施設と 連携し、状態に応じた介護サービスを 提供を継続して行う旨説明し同意を頂 いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	担当者会議開催時や面会等の際に、 生活状況等について報告を行い、意 見や要望について伺っている。苦情の 際には、ご家族の訴えを真摯に受け止 め、苦情解決に至るまで誠意を持って 対応している。苦情についての内容・ 原因・対応について書面化し職員への 周知を行っている。	苦情として訴えるまでいかなくとも、会話の中 に信頼を失墜することもあると思うし、気持ち をお伝えできない家族もあると思われる。 ご家族のアンケートからも、本人の思いや願 い、要望等を理解しているとの意見も多く、 柔軟に対応してくれているとの意見も多く聞 かれているようです。	今後も利用者・ご家族の満足度向上 に向け、取り組んで下さい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月リーダー会議・ユニット会議を行っており、利用者に関する事や業務内容に関する事などについて意見を収集し、サービスの質の向上や業務内容の改善に努めている。	各会議を定期的に行うなど、職員意見が反映される仕組みができています。コロナ禍、面会もままならなくなった時、毎月の請求書送付を活用し「状況報告書」を添付されたことなどから、職員間の会議によりサービス向上に努められていることが拝察できる。	携帯等の活用により、サービス向上をはかれると良いのではないのでしょうか。現場の職員の方が意見を言いやすい雰囲気を作り、サービスの質の向上や業務改善につなげて下さい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を行い、職員個々の業務について評価を行い法人に報告し賞与等の査定に反映されている。また長く働きやすい職場となれる様に、毎月の勤務に職員個々の希望休を反映し、有休についても積極的に取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員については法人全体で開催される新任研修に参加し必要な知識を学び、既存の職員についても研修に参加し、研修内容については復命書を作成し職員全体の知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍においても、グループホーム連絡会主催の研修会等へ参加し、情報の共有が出来るように努めている。また法人内での研修に職員が参加することで、法人内での横のつながりにも努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居事前に、本人に直接面談を行い、不安に思われていることやニーズの把握に努めている。 入居者に担当職員を配置し、個別的な要望に対処している。 入居者の初期は、小まめに面談し、会話を通じ、生活の様子や困りごとの把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前又は入居当日に担当者会議を開催して、色んな心配ごとや要望を傾聴し、分かりやすい説明を心がけて、家族等の不安感の軽減に努めている。また、電話やラインで、入居後の生活の様子を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談や事前訪問の際に、本人と家族等に必要と思われる支援内容を把握し、サービス利用の提案や他介護サービス事業所の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・一方的な介護にならないよう利用者様へ声掛けしながら行っている。 ・無理強いはせず家事手伝いをお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からの電話時には日頃の様子を伝え報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でもあったが感染者が減少した時期には、感染対策のもと近所の神社や施設前の彼岸花を見に行き近所の方ともお会いできた。	周辺の環境に恵まれていて、入居者の刺激となり良いと思う。写真等の報告で知る。	寺中・田原地区等のイベントへの参加や見学等ご検討下さい。 感染対策に留意しつつ外出行事を行い、利用者の方々の気分転換や体力低下予防、地域との交流の機会を持って下さい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・席配置への配慮、トラブルになられる方もおられるので仲裁に入り関係が悪くならないよう努めている。 ・孤独感を与えないよう生活の中でのレクリエーション等を共に行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後は入院先と定期的に連絡を取り、退居後については次の生活の場所を必要に応じて訪問し状態の把握を行い、退居先と連携し適切なサービスが提供される様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集時(アセスメント)に、本人との会話や日々の暮らしの中から、本人の意向や、希望の把握に努めている。また、職員間で情報を共有し、本人の望む暮らしが、実現できるように、毎月、話し合う場(ミニカンファ)を設けている。	本人の意向や希望を把握し、職員の皆さまで共有、実現に向けて取り組み素晴らしいと思います。今後も本人の望む暮らしの実現に向け、職員の皆さま同じ方向で支援をお願いします。	利用者の意向や望む暮らしを把握するためにも、コミュニケーションスキル向上に努めて下さい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、担当ケアマネまたは、生活相談員に、生活歴や生活環境等について情報提供していただいている。また、家族等に近況報告を兼ね、対話の中から生活歴や暮らし方について把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員が、ケアプランを元に作成したケアチェック表で、実施状況を把握し、担当職員が、見直しを行った24時間シートを活用しながら、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活リズム、意向や好み、自分でできること、サポートが必要なことを記載した24時間シートを作成し、介護計画として活用している。また、本人や担当している職員等に聞き取りを行い、評価や介護方法の検討し、御家族の意向を確認した上で、作成したケアプランと合わせて御家族に説明し同意を得ている。	介護計画を作成するための必要な事項を着実に実施しており、担当者会議も実施されている。利用者やご家族にもプランを配布しており、適切な対応をしている。サポートシート等、細かい計画を立てていただいている。計画書により、一日の生活を把握できている。24時間シートを使用し、介護計画として活用されており、転倒を繰り返す方への配慮等十分に取組まれていると思います。また家族の意向も確認し、計画書に反映されているようです。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護経過記録とCMの個別支援経過記録があり、現場や事務所のパソコンで内容を確認し実践に繋げている。毎月、カンファレンスを開催し情報を共有し、統一したケアの実践に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の心身状態の変化に伴い、家族だけでは対応困難と思われる外出時は、付き添いを実施している。また、同法人事業所から、外出支援(車両の運転や乗車介助等)の応援があり、事業所の枠を超えた支援を得ている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ひとりひとりが、地域で昔ながらの風習や変わらない暮らしの継続ができるように、近隣の神社のお参りや年祝いを実施している。また、季節感を取り入れた行事を開催し一緒に動き、楽しんでいただいている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を受診される際に受診先へ情報を連絡し、家族都合等にて必要に応じて受診対応も行っている。また希望される方には、訪問診療についての紹介を行い適切な医療が受けられるように努めている。	訪問診療を取り入れてもらえ、家族の負担軽減につながっている。	利用者の皆さまの日々の健康管理に努め、急な体調変化にも対応できる体制づくりをお願いします。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設職員として看護師有資格者を1名配置しており、入居者の体調変化が見られた際には状態報告を行い受診を含め対応について相談している。また訪問診療対象者についても同様に往診の必要性が無いか状態報告行い相談し対応している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される際は、入院先とこれまでの生活やサービス状況等について報告し、今後の治療方針の確認を行っている。入院期間中についても、定期的に入院先へ連絡し状況の確認をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では終末期対応は行っていない。入居者について生活していく中で重度化した場合や終末期についての検討が必要な場合となった際には、本人の状態について家族へ説明し今後の意向について確認を行い、意向に沿ったサービスが提供できるように、協力医療機関や法人施設と連携している。	必要な方へ意向に沿ったサービス提供ができるように、日頃から各機関等と連携している。 入居者の体調悪化し”万が一”が予測できる時に早目の説明の場をもってもらったので、心の準備等を持てた。	近年、看取り対応されている施設も増えてきており、住み慣れたグループホームで家族や職員の皆さまに見守られながら最期を迎える事ができる環境作りができると良いと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDや心肺蘇生等について定期的に実技研修を実施しており、状態急変や事故発生時のマニュアル等を整備している。また事例発生時には、情報を共有し問題点があれば検討し、同様の事例に対応出来る様に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練及び防災教育を実施しており、台風等による当施設への何らかの影響が予測される際には、法人に協力を依頼し法人関連施設へ避難を行っている。また当施設には地域の放送器が設置されており、地震や火災などの災害発生時には活用し、近隣住民の方へ災害時支援を依頼できる体制が整っている。	梅雨時期や台風接近で大雨等の危険が予測される際には事前に避難を行い、安全を確保されている。また、避難訓練も定期的に行われている。 災害発生が予想される時、気象状況により細かい対応がされていて安心できている。 定期的に防災訓練及び防災教育を実施されており、法人との協力体制も取れている。地域住民の方々との連携体制も整っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・会話や申し送り時はフルネームではなく頭文字やイニシャルで伝えたりしている。 ・声掛けのトーンや目線などが上からにならないように気を配っている。 ・ご利用者様が出来ていない事、分からない事があっても話を聞き否定はしていない。	一人ひとりの尊重とプライバシー確保のため、対利用者、職員間で適切に対応されていると思われます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・職員主体となって決めるのではなく選択できるような声掛けをしている。 ・「～して下さい」等の声掛けではなく「～してもらってもいいですか?」「お願いしてもいいですか?」等の疑問文にて声かけする事で強制せず希望を聞きながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ご利用者様のペースに合わせて声掛けや介助を行っている。 ・ご利用者様が言動に合わせて危険がない限りは見守っている。(無理に止めたりしない) ・お願いした際など希望に添わない時には無理強いはしていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・毎月、散髪の希望を確認し対応を行っている。 ・起床時は整髪をしている。 (自立されている利用者については本人に声掛けを行っている) ・入浴時は、衣服を選んでいただく。 ・衣服汚染時は速やかに更衣している。 ・季節に合った衣類を着用していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食レクや、誕生日会など利用者から嗜好品を聞き、楽しんでいただける様な行事食を提供している。	行事食や旬の食材を使った、食事の提供が行われている。 写真を通して、食事を楽しむ支援に取り組まれていることが伝わってきている。 季節や行事に合わせて、視覚的にも食事を楽しめる配慮がなされていると思います。 利用者と一緒に片付け等行われており、利用者の自立支援にもつながると思われま	可能であれば、利用者の方と一緒に調理できるといいなと思います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・摂取量、キザミ食等個々に合わせて対応している。 ・食事摂取量の少ない利用者へ栄養補助食品の提供 ・水分は、個々の希望に沿った飲み物を提供している。 ・食事、水分量の記録、管理		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ、歯科往診、口腔ケア、受診 ・食後の歯磨きの声掛け ・介助が必要な利用者への口腔ケア ・義歯洗浄・消毒 		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄パターンを把握し、個々に適切なオムツの種類の選定。 ・排泄パターンの把握により、トイレへの声掛けを行い失敗による不快感が無い様にする。また、オムツ外しにも取り組んでいる。 	<p>一番手を取るであろう排泄支援については、介護計画にて支援をいただいているのだと、感謝している。</p> <p>一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援に取り組まれていると思います。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・排便間隔を把握し、排便困難な利用者については主治医に相談し指示を仰ぎ、下剤による排便コントロールを行っている。 ・朝食時に牛乳の提供や、食事に食物繊維の付加し提供している。 ・腹部マッサージの実施。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人に声掛けをして、午前中に入浴をしたい人、午後に入浴をしたい人と分けて入浴支援をしている。 ・どうしても入浴の拒否などがある場合には、無理強いせず曜日を変更するなど入浴の支援を行っている。 ・頭皮に疾患を持っておられる入居者様については、入居者様専用のシャンプーなどを使用している。 	<p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、頻度や時間帯の調整をされている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様が今まで使ってこられた布団や枕などを家族にお願いしてもらい、すこしでも我が家にいるような環境整備をしている。 ・クッションなどを使用して、少しでも安眠が出来るように支援している。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬介助の際は一人一人義歯を外し服薬を行い、最後まで飲み込みの確認を行う。 ・嚥下状態が悪い入居者様についてはトロミなどを使い支援している。 ・服薬の際、職員同士で二重確認をし声出し確認をしている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・生活リハとして、洗濯物たたみ、花の水やり、洗濯物干し等個々の能力に合った作業を手伝わされている。 ・季節の飾り絵の際は、入居者様全員で行っている。 ・天気良い日はウッドデッキなどで日光浴をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、新型コロナウイルス感染症で外出支援等は控えている状況だが、1月は初詣などの支援を行った。	コロナ禍の元で外出行事等も制限される中、津森神宮参拝や施設屋外での食事会など外出も簡単にはできないと思いますが、できる範囲で戸外に出かけられるよう工夫されている。 感染対策に留意しつつ、日常的な散歩等の外出支援をされている。施設内においてできる事を工夫され、実践されていると思います。	利用者の方々の気分転換や、地域との交流の機会を持ってください。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金に関しては事務所にて管理している。外出するときや自分がほしい物は預り金から支援し、その際は家族にも報告をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・利用者様ご自身の携帯電話を持たれている方が居る。 ・施設の通信端末にてライン電話などを活用し、家族の方の希望がビデオ通話等の対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・毎日掃除をし、きれいにしている。 ・光がまぶしい時は、カーテンで調節している。 ・エアコンを使い温度調節をし、窓を定期的に開け換気をしている。 ・花や植物を飾っている。	室内に関してはお答えできないが、外回り等では季節を感じるお花の植栽・草刈りには配慮をいただいている。 居心地のよい共用空間づくりのために、環境整備に配慮されている。	今後も利用者の方と一緒に、心地よい空間づくりに努めてください。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりに自席が決められており、気の合う方と同じテーブルに座れるように配慮している。 ・テレビが好きな方は、好きな番組が見れるようにしている。 ・馴染みのある音楽を流したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅から、タンスや、テレビなどを持ってきていただいている。 ・家族の写真を飾っている。 ・レクリエーションなどで本人が作ったものを飾っている。 	<p>コロナ禍からの入居のため、居室の配慮等お答えしがたい。</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮のため、利用者の使い慣れた物や写真等を持ち込むことができるよう配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行時は見守りを行い、転倒のリスクがある方には付き添っている。 ・出来ることは自分でしてもらえるように声掛けを行い、必要に応じて手伝いをしている。 		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392800134		
法人名	社会福祉法人慈光会		
事業所名	グループホーム津森倶楽部なごみユニット		
所在地	熊本県上益城郡益城町大字寺中1番地1		
自己評価作成日	令和5年 3月15日	評価結果市町村受理日	令和5年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	慈光会ホームページにて情報公開
----------	-----------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	グループホーム津森倶楽部 運営推進委員会(令和4年度運営推進委員7名に依頼)		
所在地			
評価日(書類送付)	令和5年 3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスの流行から数年経過し、津森倶楽部においては昨年度2度に渡り施設内において、感染者を出してしまいました。感染対応期間中は利用者様には不自由な状況での生活が続き、様々な我慢をしていただきました。都度経験した事の振り返りを行い、今後も『施設にコロナを入れない』という思いを常に持ち、職員一丸となり利用者の皆様が安全・安心・楽しく過ごしていただけるように努め、コロナ禍においても楽しみを持ち季節を感じながら生活出来るような行事やイベントを企画して行きたいと思っております。またご家族様においては面会等様々な制限があり心配や不安な思いをされている方も多く、少しでも安心していただけるように施設ホームページや毎月写真を掲載した情報書を郵送等による情報発信を今後も継続していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍が続き、様々な制限がある中、利用者を中心とした取り組みがなされています。住み慣れた環境で、その人らしい生活が送れるよう適切な介護サービスに努められています。法人内施設等の支援体制が確保されていることで、入居者と家族の安心感は何ものにも変え難いのではないかと感じております。職員の皆様のやさしい笑顔の対応。感染症対策に留意されながら可能な範囲を工夫され、外出支援や行事を取り入れられ、また地域との交流の機会も確保されていると思います。今後も地域行事への参加や、地域住民の方も参加できる行事の企画を通じて地域との繋がりを築いて下さい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 なごみユニット

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に職員で事業所独自の理念を作成。施設内に掲示し理念に基づいたケアが出来るよう常に年度ごとに、経営計画を立案し取り組んでいる。	入居者の個人差がある中でできること、したいことを可能な限り取り入れた支援につなげている。	可能な限り最大限入居者が取り組めることを中心とした生活パターンをお願いしたい。 理念の共有を具体的にどのように実施されているか分かるように。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の家として毎年区費を納め、コロナ禍においても出来るかぎり地域の方と交流している。	地域との関わりが難しい状況のなか、工夫して取り組みを継続されている。 地域の民生委員さんや区長さんとのつながりを日頃からもたれていることが、役員構成で理解でき、周辺の草刈り状況のご相談もされていることから理解できる。 コロナ禍において、地域の方との交流の機会を作る事も苦勞されていると思います	コロナが落ち着き、以前のような散策等が可能になってくると、より一層地域周辺の皆様とのつながりを深めていただきたい。 コロナ禍における交流の方法と、コロナが終息した際の交流をどのように実施するかご検討下さい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校より依頼があった際は、感染状況を考慮した上で出向し認知症や施設について知識・役割を説明し発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍において感染状況に応じて会議開催の判断を行い、開催が困難な場合は期間中の取り組み等について書面を郵送し、状況報告を行っている。	コロナ禍のため、皆集まるのがむずかしく、施設より書面にて定期的に状況報告の資料が送られるので参照にしている。 コロナの感染者数等、状況に応じた会議開催の判断をしていただき、中止時には書面での詳しいご報告があっている。 活動の様子が分かるような写真等も添えてあり、ホーム内の状況が分かりやすい。	これまでより開催される方向で行ってほしい。直接意見交換できることが何より大切で、貴重ではないかと思われる。 会議などのオンライン化も進んでおり、対面での開催が難しい時は、オンラインを活用し開催もいいのではないのでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員の一員として、コロナ禍で会議が開催されない場合についても書面で報告を行っており、施設運営に関する問題等相談させていただいており、協力関係が築けている。	町と協力関係を築き、適切な介護サービスの実施に取り組まれている。 状況をみての会議ではあっても、市町村の担当者も出席され各代表の意見も聞かれて、相互の関係作りがなされていると思われる。包括支援センターとしても協力できる事があれば対応いたしますので、何でもご相談下さい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を定期的実施しており、日頃より身体拘束を行っていないか職員同士で確認し、身体拘束無いケアを実践している。	研修を行い、職員全員が身体拘束に関する認識を共有して適切なケアに取り組んでいる。 認知症がある入居者対応には苦慮される中、研修等により、よりよい実践が行われていると思われる。(室内での面会ができないため、外部には見えない部分もあるが、職員の皆さんを信用している。)	同じ方の転倒事例等あれば、繰り返さない対策をご検討下さい。 定期的な研修の機会を設け、お互いに虐待を防ぐ取り組みと、外部からの目も入りやすい環境作りにつとめて下さい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に虐待についても研修を定期的実施しており、日頃より虐待を行っていないか職員同士で確認し、虐待の無いケアを実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外の研修会に感染状況に応じての参加や、インターネット等を通じて権利擁護についての理解を深める機会をもっている。研修会に参加した場合は復命書を作成し、職員全体での情報共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には事前にオリエンテーションを実施し、津森倶楽部における利用契約内容、重要事項等を説明している。長期の入院加療が必要な際は、退居・解約について説明し、退院時の生活の場所についても法人内の施設と連携し、状態に応じた介護サービスを提供を継続して行う旨説明し同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議開催時や面会等の際に、生活状況等について報告を行い、意見や要望について伺っている。苦情の際には、ご家族の訴えを真摯に受け止め、苦情解決に至るまで誠意を持って対応している。苦情についての内容・原因・対応について書面化し職員への周知を行っている。	苦情として訴えるまでいかなくとも、会話の中に信頼を失墜することもあると思うし、気持ちをお伝えできない家族もあると思われる。ご家族のアンケートからも、本人の思いや願い、要望等を理解しているとの意見も多く、柔軟に対応してくれているとの意見も多く聞かれています。	今後も利用者・ご家族の満足度向上に向け、取り組んで下さい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月リーダー会議・ユニット会議を行っており、利用者に関する事や業務内容に関する事などについて意見を収集し、サービスの質の向上や業務内容の改善に努めている。	各会議を定期的に行うなど、職員意見が反映される仕組みができています。コロナ禍、面会もままならなくなった時、毎月の請求書送付を活用し「状況報告書」を添付されたことなどから、職員間の会議によりサービス向上に努められていることが拝察できる。	携帯等の活用により、サービス向上をはかれると良いのではないのでしょうか。現場の職員の方が意見を言いやすい雰囲気を作り、サービスの質の向上や業務改善につなげて下さい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を行い、職員個々の業務について評価を行い法人に報告し賞与等の査定に反映されている。また長く働きやすい職場となれる様に、毎月の勤務に職員個々の希望休を反映し、有休についても積極的に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員については法人全体で開催される新任研修に参加し必要な知識を学び、既存の職員についても研修に参加し、研修内容については復命書を作成し職員全体の知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍においても、グループホーム連絡会主催の研修会等へ参加し、情報の共有が出来るように努めている。また法人内での研修に職員が参加することで、法人内での横のつながりにも努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居事前に、本人に直接面談を行い、不安に思われていることやニーズの把握に努めている。 入居者に担当職員を配置し、個別的な要望に対処している。 入居者の初期は、小まめに面談し、会話を通じ、生活の様子や困りごとの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前又は入居当日に担当者会議を開催して、色んな心配ごとや要望を傾聴し、分かりやすい説明を心がけて、家族等の不安感の軽減に努めている。また、電話やラインで、入居後の生活の様子を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談や事前訪問の際に、本人と家族等に必要と思われる支援内容を把握し、サービス利用の提案や他介護サービス事業所の紹介を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの会話の中に生活の様子を取り入れたり、毎日の挨拶を一人一人に出来る様に心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の情報を職員間だけではなくご家族様にも報告をして、相談しながらケアを行なっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔のご友人からの郵便物やハガキが届いたり、楽しみに待っておられる。	周辺の環境に恵まれていて、入居者の刺激となり良いと思う。写真等の報告で知る。	寺中・田原地区等のイベントへの参加や見学等ご検討下さい。 感染対策に留意しつつ外出行事を行い、利用者の方々の気分転換や体力低下予防、地域との交流の機会を持って下さい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・馴染みの関係が出来る様に席の配慮をしている。 ・共通の趣味などを行える様にお花や野菜を植えたり、手入れを一緒に行なっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後は入院先と定期的に連絡を取り、退居後については次の生活の場所を必要に応じて訪問し状態の把握を行い、退居先と連携し適切なサービスが提供される様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集時(アセスメント)に、本人との会話や日々の暮らしの中から、本人の意向や、希望の把握に努めている。また、職員間で情報を共有し、本人の望む暮らしが、実現できるように、毎月、話し合う場(ミニカンファ)を設けている。	本人の意向や希望を把握し、職員の皆さまで共有、実現に向けて取り組み素晴らしいと思います。今後も本人の望む暮らしの実現に向け、職員の皆さま同じ方向で支援をお願いします。	利用者の意向や望む暮らしを把握するためにも、コミュニケーションスキル向上に努めて下さい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、担当ケアマネまたは、生活相談員に、生活歴や生活環境等について情報提供していただいている。また、家族等に近況報告を兼ね、対話の中から生活歴や暮らし方について把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員が、ケアプランを元に作成したケアチェック表で、実施状況を把握し、担当職員が、見直しを行った24時間シートを活用しながら、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活リズム、意向や好み、自分でできること、サポートが必要なことを記載した24時間シートを作成し、介護計画として活用している。また、本人や担当している職員等に聞き取りを行い、評価や介護方法の検討し、御家族の意向を確認した上で、作成したケアプランと合わせて御家族に説明し同意を得ている。	介護計画を作成するための必要な事項を着実に実施しており、担当者会議も実施されている。利用者やご家族にもプランを配布しており、適切な対応をしている。サポートシート等、細かい計画を立ていただいている。計画書により、一日の生活を把握できている。24時間シートを使用し、介護計画として活用されており、転倒を繰り返す方への配慮等十分に取り組まれていると思います。また家族の意向も確認し、計画書に反映されているようです。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護経過記録とCMの個別支援経過記録があり、現場や事務所のパソコンで内容を確認し実践に繋げている。毎月、カンファレンスを開催し情報を共有し、統一したケアの実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の心身状態の変化に伴い、家族だけでは対応困難と思われる外出時は、付き添いを実施している。また、同法人事業所から、外出支援(車両の運転や乗車介助等)の応援があり、事業所の枠を超えた支援を得ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ひとりひとりが、地域で昔ながらの風習や変わらない暮らしの継続ができるように、近隣の神社のお参りや年祝いを実施している。また、季節感を取り入れた行事を開催し一緒に動き、楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	かかりつけ医を受診される際に受診先へ情報を連絡し、家族都合等にて必要に応じて受診対応も行っている。また希望される方には、訪問診療についての紹介を行い適切な医療を受けられるよう努めている。	訪問診療を取り入れてもらえ、家族の負担軽減につながっている。	利用者の皆さまの日々の健康管理に努め、急な体調変化にも対応できる体制づくりをお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設職員として看護師有資格者を1名配置しており、入居者の体調変化が見られた際には状態報告を行い受診を含め対応について相談している。また訪問診療対象者についても同様に往診の必要性が無いか状態報告を行い相談し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される際は、入院先とこれまでの生活やサービス状況等について報告し、今後の治療方針の確認を行っている。入院期間中についても、定期的に入院先へ連絡し状況の確認をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では終末期対応は行っていない。入居者について生活していく中で重度化した場合や終末期についての検討が必要な場合となった際には、本人の状態について家族へ説明し今後の意向について確認を行い、意向に沿ったサービスが提供できるように、協力医療機関や法人施設と連携している。	必要な方へ意向に沿ったサービス提供ができるように、日頃から各機関等と連携している。 入居者の体調悪化し”万が一”が予測できる時に早目の説明の場をもってもらったので、心の準備等を持たた。	近年、看取り対応されている施設も増えてきており、住み慣れたグループホームで家族や職員の皆さまに見守られながら最期を迎える事ができる環境作りができると良いと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDや心肺蘇生等について定期的に実技研修を実施しており、状態急変や事故発生時のマニュアル等を整備している。また事例発生時には、情報を共有し問題点があれば検討し、同様の事例に対応出来る様に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練及び防災教育を実施しており、台風等による当施設への何らかの影響が予測される際には、法人に協力を依頼し法人関連施設へ避難を行っている。また当施設には地域の放送器が設置されており、地震や火災などの災害発生時には活用し、近隣住民の方へ災害時支援を依頼できる体制が整っている。	梅雨時期や台風接近で大雨等の危険が予測される際には事前に避難を行い、安全を確保されている。また、避難訓練も定期的に行われている。 災害発生が予想される時、気象状況により細かい対応がされていて安心できている。 定期的に防災訓練及び防災教育を実施されており、法人との協力体制も取れている。地域住民の方々との連携体制も整っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・本人様が不快にならない様な言葉かけをする様に気を付けている。 ・利用者の方の意見を尊重し否定的な言葉は避けており、排泄や身体的な事を大きな声で話をしない。	一人ひとりの尊重とプライバシー確保のため、対利用者、職員間で適切に対応されていると思われまます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・食間の飲み物などは本人様の希望や嗜好にそった物を提去している。 ・起床時間や休まれる時間も本人様に合わせた時間で出来る様に声かけをしている。 ・お誕生日は本人様の希望の食事を提供している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・どこで過ごしたいか、どんなテレビを見るか、家事作業などをしてほしいか等の自己決定は可能な限り希望を聞いている ・食事時間などは本人様の希望に合わせて変更し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・朝の整容・整髪を一人一人身だしなみを一緒にチェックしている。 ・季節に合った衣類を選び体調管理をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・季節や行事ごとに合った食事や、見た目や味付けに配慮して提供しており、フリーメニューや誕生日の日には嗜好をあらかじめ聞き提供している。 ・下膳後お盆拭き等の片付けを一緒にしている。	行事食や旬の食材を使った、食事の提供が行われている。 写真を通して、食事を楽しむ支援に取り組まれていることが伝わってきている。 季節や行事に合わせて、視覚的にも食事を楽しめる配慮がなされていると思います。 利用者と一緒に片付け等行われており、利用者の自立支援にもつながると思われま。	可能であれば、利用者の方と一緒に調理できるといいなと思います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・管理栄養士に気になるところを相談し、栄養状態など情報共有し食事を提供している。 ・水分摂取量が少ない時は、水分ゼリーなど代替えし提供している。 ・嚥下機能低下の方には、水分にトロミやキザミ食を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ●毎食後声掛けし口腔ケアを行っている。 ●歯間ブラシが必要な方には行っている。 ●声掛けし義歯を外し洗浄を行っている。外した義歯を毎晩消毒している。 ●定期的に歯科衛生士より口腔ケア施行。 		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ●排便チェック表に記入し排便コントロールを行っている。看護師に相談している ●食事前後に排泄の声掛けし誘導している。 ●日中失禁が少ない方には布パンツを使用しトイレ時にパット交換を行っている。日中と夜間帯のパット内容を変え失敗を減らしている。 	<p>一番手を取るであろう排泄支援については、介護計画にて支援をいただいているのだと、感謝している。</p> <p>一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援に取り組まれていると思います。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ●排便コントロールを把握し記録と申し送り職員間の便秘対策を行っている。主治医に相談しその方に合った便秘対策をしている。 ●朝食前にその方その日に合った飲み物(温度内容)を提供している。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<p>入浴は週に2回程度としているが、要望や状況に応じて毎日の入浴や、夜7時までの入浴を可能としている。</p> <p>菖蒲湯・ゆず湯で季節を味わったり、BGMを流すなど心地よさを大切に支援している。</p>	<p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、頻度や時間帯の調整をされている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>天気の良い日に定期で、布団干しを行っている。また1日通し、いつでも休んで頂けるように、照明、温室管理している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬状書を入れており、薬の目的や副作用、用法や用量について確認している。 誤薬がないよう、職員間でダブルチェックを行なっている。服用後も薬袋の確認を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時や日々の中で生活歴や趣味をアセスメントし、カラオケ、家事、塗り絵、音楽鑑賞など個人に合った楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策により、散歩などは少人数で出来る限り付き添うよう支援している。ウッドデッキで日光浴やお茶会を楽しんだり、出来る事を試みながら気分転換を支援している。	コロナ禍の元で外出行事等も制限される中、津森神宮参拝や施設屋外での食事会など外出も簡単にはできないと思いますが、できる範囲で戸外に出かけられるよう工夫されている。 感染対策に留意しつつ、日常的な散歩等の外出支援をされている。施設内においてできる事を工夫され、実践されていると思います。	利用者の方々の気分転換や、地域との交流の機会を持ってください。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理が可能な方は少額を居室にて自己管理されている。 その他の方は本人、ご家族同意の下、事務室の金庫、出納長にて管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	●毎月、近況報告を作成し送付 ●施設での生活風景を写真に撮り貼付		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ●共有スペース・居室・リビングの掃除 ●トイレの掃除・防臭 ●朝夕日差し防止カーテン ●温度調節・加湿(冬場) ●季節ごとのリビングの飾り付け ●観葉植物など緑を置く ●新型コロナウイルス対策(換気・消毒・除菌) 	室内に関してはお答えできないが、外回り等では季節を感じるお花の植栽・草刈りには配慮をいただいている。 居心地のよい共用空間づくりのために、環境整備に配慮されている。	今後も利用者の方と一緒に、心地よい空間づくりに努めてください。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ●テーブルの位置・席の配慮 ●車椅子で自操できる動線・通路の確保 ●自室で過ごしてもらうように声掛けの配慮 		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ●本人の生活スタイルに合わせた居室作り ●個人の作品や慣れ親しんだ物を置き過ぎしやすい家具の配置 	コロナ禍からの入居のため、居室の配慮等お答えしがたい。 居心地よく過ごせる居室の配慮のため、利用者の使い慣れた物や写真等を持ち込むことができるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ●危険リスクのある方は鈴やセンサーで対応 ●障害物を置かない 		